



新生さくら道の会 (座間市)

緑道の再生から街づくりへつな

■ 荒廃した緑道を復活させよう

座間市相模が丘にある緑道は1600mも続くさくらの名所で、近隣住民の唯一の憩いの場でしたが、時間とともに荒廃し、台風が来れば老木となったソメイヨシノの太い枝が折れて落下し、民家に被害を与えかねない状態でした。こうした状況を何とかしたいという想いから、2008年、従来からあった「さくら保存会」を発展的に解消し、「新生さくら道の会」(2020年

2月現在、正会員約380名、賛助会員10名)を結成。座間市と連携して緑道の再生の取組みを開始しました。

■ 365日体制の緑道管理

計画期間、工事期間を経て、2015年3月、新たな緑道「さくら百華の道」(仲よし小道)が誕生しました。病気になりにくく大きくなり過ぎない64品種の里桜が植えられています。この多様な桜は開花の時期が異なっており、2月下旬から5月

上旬という長い期間に渡って桜を楽しむことができます。しかし、その分管理をしっかりしなくてはなりません。「新生さくら道の会」では、2014年1月、会とは別にNPO法人を立ち上げ、樹木の剪定や雑草の除去、清掃といった緑道の管理事業を365日体制で実施しています。市から委託されている事業であるため、経費の管理などをしっかり行っています。

作業するのは造園知識のない



げる

ボランティアの皆さん。人員配置は市役所も参加する調整会議で決めています。大人数の組織をまとめる工夫として、エリアごとにリーダーを置き、リーダー会で意見交換をしているそうです。

■ 緑道を中心に広がる地域の輪

「朝、緑道でパトロール等の作業をしていると、歩いている人と自然に挨拶を交わすようになり、知り合いが増えていく。」と話すのは、現会長の石川 正

一言アドバイス

小さな活動から地域の輪が広がります。



新生さくら道の会
会長 石川 正治さん (写真左)

成功のコツ

- ・ 緑道の再生という課題解決が、地域住民の思いで魅力ある資源に
- ・ 住民や行政、学校を巻き込んでつくる地域の一体感

治さん。緑道の管理を目的として始まった活動から、住民間のコミュニケーションが生まれています。

緑道は車が通れないためウォーキングに最適で、高齢者や障がい者に優しい「福祉の道」とも呼ばれており、今では年間80万人の方が利用しています。広場では月1回朝市が開かれ、季節ごとにさくら祭り、ひな祭り、七夕祭りも行っています。

また、地域の小学生を対象に花植え体験も実施するなど、緑道を中心に様々な人のつながりが生まれています。

